

# News release

2024年6月7日

## Rocatinlimab (AMG 451 / KHK4083) に関する 日本皮膚科学会総会 (JDA2024) での発表のお知らせ

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本 昌志 以下、協和キリン）は、中等症から重症のアトピー性皮膚炎（AD）患者を対象として開発中の rocatinlimab (AMG 451 / KHK4083) の第 2b 相臨床試験における日本のサブグループ解析結果について、2024年6月6日から9日まで京都で開催される第123回日本皮膚科学会総会で発表することをお知らせします。本第2b相臨床試験はグローバル（日本、米国、カナダ、ドイツ）で実施されており、日本を含むグローバル全てのデータの解析結果については2021年の欧州皮膚科性病科学会議（EADV）および \*The Lancet にて発表しています。

\*An anti-OX40 antibody to treat moderate-to-severe atopic dermatitis: a multicentre, double-blind, placebo-controlled phase 2b study: Lancet. 2023 Jan 21;401(10372):204-214.

AD は、皮膚の発赤、そう痒、疼痛を特徴とする慢性の多種多様な炎症性疾患であり、皮膚バリア障害と T 細胞依存性の炎症経路によって引き起こされます。疾患の原因となる様々な炎症経路の相対的な寄与の度合いは、個々の集団間や時間経過と共に個人内においても変化することがあります。

AD は小児期に発症することが多く、小児の 15～20%、成人の最大 10%が罹患し、非致死性疾患としては 15 番目に多い疾患で、世界的に広がりを見せており、世界の AD 患者の約 3 人に 1 人が中等症から重症であるとされています。有効な治療薬がある一方で、様々なタイプの患者さんに持続的な効果をもたらす、高い有効性と安全性を有する新規治療薬がもためられています。

### 一般演題およびポスター発表演題

演題： アトピー性皮膚炎における Rocatinlimab の第 2b 相臨床試験データ

演者： 高橋 英俊<sup>1</sup>、椋島 健治<sup>2</sup>、井川 健<sup>3</sup>、Ehsanollah Esfandiari<sup>4</sup>、Emma Guttman-Yassky<sup>5</sup>

1:高木皮膚科診療所 2:京都大学 3:獨協医科大学 4:協和キリン株式会社 5:Icahn School of Medicine at Mount Sinai

協和キリングループは、ライフサイエンスとテクノロジーの進歩を追求し、新しい価値の創造により、世界の人々の健康と豊かさに貢献します。

### **rocatinlimab について**

rocatinlimab (AMG 451 / KHK4083) は、現在開発中のファーストインクラスになりうるヒト型抗 OX40 モノクローナル抗体であり、全身および局所の炎症反応を促進する役割を担っている OX40 を発現した病原性 T 細胞を阻害し、またその数を減少させます。

アトピー性皮膚炎の病変部には、OX40 を発現した細胞が存在し、その発症に重要な役割を果たしていることが報告されています。

初期の抗体は当社の米国研究チームとラホヤ免疫研究所の共同研究により見いだされました。

### **アムジェンと協和キリンの提携について**

2021 年 6 月 1 日、協和キリンとアムジェンは rocatinlimab の共同開発・販売に関する契約を締結しました。本契約に基づき、アムジェンは本剤の開発、製造、および協和キリンが単独で販売活動を担当する日本を除くグローバルでの販売活動を主導します。両社は米国において本剤のコ・プロモーションを行い、協和キリンは米国以外（日本を除く欧州およびアジア）においてコ・プロモーションを行う権利を有しています。